

認知症の人と家族への支援について

出雲市健康福祉部医療介護連携課

全ての認知症の人が、基本的人権を享有する個人として、尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、令和5年(2023)6月に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」(令和5年法律第65号。以下「認知症基本法」という。)が制定され、認知症の人や家族等の意見を聴きながら、認知症施策を推進していくこととされました。

そして出雲市では、認知症の人とその家族への支援に関わる保健・医療・福祉の関係者で構成される「出雲市認知症施策強化検討会」に検討いただき令和7年1月に「出雲市認知症施策推進計画」を策定しました。また、市内の認知症の人とその家族への聞き取りアンケートの実施結果や、認知症に関する各相談支援機関状況のヒアリングの結果、多くの関係者の意見を計画に反映しました。

人生100年時代を迎える中、高齢化の進展による認知症高齢者の増加を見据えつつ、様々なライフイベントに直面する若年性認知症の人の抱える課題へ適切に対応しながら、認知症の人を含め、一人ひとりがその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する社会を実現させていくに当たり、以下の基本方針の下施策を推進していきます。

基本方針

認知症の人やその家族等とともに認知症施策を推進し、誰もが認知症になり得る中において市民一人ひとりが、認知症への正しい知識を持ち、認知症の人が基本的人権を有する個人として認知症とともに希望を持って生きるという考え方(新しい認知症観)を自分ごととして理解することで、誰もが安心して認知症になれるまちづくりを進めます。

新しい認知症観の理解のために各事業をご利用・ご参加ください

目的：認知症に関する市民の理解を深める
 日時：毎年9月（令和7年度から認知症月間に合わせ開催）
 内容：認知症の本人等による講演

～認知症になっても笑顔で暮らせるまちづくり～

認知症ケアフォーラム

令和5年 **11月26日** (日)

13:30～15:00 (13:00開場)

出雲市役所1階 くにびき大ホール

Web配信 Zoomウェビナーによる同時配信あり

参加費
無料

講演1 「認知症になってからのセカンド・ストーリー～私からあなたに伝えたい」

講師 山中しのぶ氏 (一般社団法人 セカンド・ストーリー)

講演2 「認知症になった母を持つ僕にできること」

講師 山中 蓮氏 (一般社団法人 セカンド・ストーリー 副理事長)



▲左山中蓮氏 右山中しのぶ氏

山中しのぶ氏 プロフィール

1977年生まれ。高知県高知市在住。3人の男の子の母。2018年に認知症を扱ったテレビドラマを見て、息遣われ受診し、2019年2月、41歳で若年性アルツハイマー症と診断を受ける。
 現在は、認知症になっても暮らしやすい街づくりを一般社団法人「セカンド・ストーリー」を設立し、2021は利用者が有償でボランティア活動を行う「デイサービス」を香南市に開所。2022年7月には、認知症当事者の社会的理解を促す活動等を行う「高知県希望大認知症本人大使」に就任。白らの経験を語るなど、認知症に取り組んでいる。

主催/出雲市医療介護連携課 院長 高橋 幸男氏

出雲市市制施行20周年記念

～認知症になっても笑顔で暮らせるまちづくり～

認知症ケアフォーラム

令和6年 **11月23日** (土) 13:30～15:00 (13:00開場)

出雲市役所1階 くにびき大ホール

参加費
無料

講演 「ひと足先に認知症になった、私から」



講師 さとうみき氏

さとうみき氏 プロフィール
 1975年生まれ。東京都在住。甥の4人で暮らしている。認知症を扱ったテレビドラマ、認知症専門医を受診。2019年と診断を受ける。
 診断後は、デイサービスのスタッフは各地で講演会や学生への講演、バーササールデザイン委員会に2023年には、「どうきょう認知症」に関する活動に取り組み、「認知症のわたしから」があり、10代に鑑らず、さまざまな反響を得ている。

主催/出雲市医療介護連携課 院長 高橋 幸男氏

令和8年度開催予定
 令和8年9月13日(日)午後

主催/出雲市医療介護連携課 院長 高橋 幸男氏
 後援/一般社団法人出雲医師会、出雲認知症サポート医会、出雲市医師会、社会福祉法人出雲市社会福祉協議会、出雲地域介護保険サービス事業者連絡会、出雲地域認知症グループホーム連絡協議会、島根県、しまね認知症疾患医療センター、日本ホームヘルパー協会島根県支部、認知症の人と家族の会島根県支部

事務局/出雲市医療介護連携課 TEL21-6106 FAX21-6749 (e-mail:iryou@city.izumo.shimane.jp)

9月は認知症月間です

～誰もが安心して認知症になれるまちづくり～

認知症ケアフォーラム

令和7年 **9月28日** (日) 13:30～15:00 (13:00開場)

出雲市役所1階 くにびき大ホール

Web配信 Zoomウェビナーによる同時配信あり (要Web申込)

参加
無料

会場参加
申込
不要

当日、会場に
直接お越しください

講演 「認知症と共に生きる」



講師 しもさか あつし 下坂 厚氏 (写真家・認知症当事者)

プロフィール

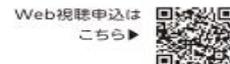
1973年6月生まれ。大手鮮魚店での勤務を経て、仲間と共に鮮魚店を起業。46歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断され、絶望と葛藤の中で会社を退職。
 その後、認知症初期集中支援チームのつながりから京都のデイサービスと出会い、ケアワーカーとして正職員勤務を経験。写真のスキルを活かし、法人本部の広報業務も担当した。
 現在は、法人との業務委託を終え、写真家としての創作活動を中心に、講演やピアサポートを通じて認知症のある人の声を社会に届ける活動に取り組んでいる。「ディメンシア・ギフト (Dementia Gift)」という独自の視点から、認知症によって得られた気づきやまなざしを写真や言葉で表現し続けている。

※講師の撮影した写真の展示も予定しています。

議長 エスポアール出雲クリニック 院長 高橋 幸男氏

参加申込について

- 会場参加 申込は不要です。当日、会場に直接お越しください。
 ※駐車場に限りがございますので、できるだけお乗り合わせお越しください。
- Web視聴 事前にZoomウェビナー登録が必要です。
 フォーラム開始前までに、Web申込(二次元コード)から登録してください。
 Web申込: https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_vwjywgtrX-37EFCEornQA
- 手話通訳が必要な場合は、9月17日(水)までにFAXまたはメールにて、医療介護連携課へご連絡ください。
- 会場にはヒアリンググループ(*)があります。(対応席:会場南側)
 ※ヒアリンググループ・補聴器を使用している人の聞こえを補助するもので、マイク等を通じた音声は補聴器に直接電波で届き、明瞭な音で聞くことができます。



主催/出雲市(健康福祉部医療介護連携課) 共催/認知症の人と家族の会島根県支部
 後援/一般社団法人出雲医師会、出雲認知症サポート医会、出雲市医師会、社会福祉法人出雲市社会福祉協議会、出雲地域介護保険サービス事業者連絡会、出雲地域認知症グループホーム連絡協議会、島根県、しまね認知症疾患医療センター、島根県ホームヘルパー協会、出雲市認知症キャラバン・メイト連絡会

事務局/出雲市医療介護連携課 TEL21-6106 FAX21-6749 (e-mail:iryou@city.izumo.shimane.jp)

認知症キャラバン・メイト*1の協力のもと、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者である認知症サポーターを養成するため、認知症サポーター養成講座を開催しています。

事業所単位やお友達等誘い合って受講してください。

*1 認知症キャラバン・メイト:「認知症サポーター養成講座」において、講師を務める人。所定の養成研修を受講後、登録し、認知症に関する知識や認知症の人への接し方などの普及啓発を行う役割を担う。

～ 認知症になっても笑顔で暮らせるまちづくり ～

出雲市

認知症サポーター 養成講座

認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、声かけやちょっとした手助けができる地域の応援者です。



町内会の集まりの日や、
ゴミ出しの日に声をかける

偏見や差別心を持たない

お茶飲みに誘ってみる

道を歩いている気になる
人がいたら声をかける



対象

出雲市内の学校・職場・自主グループ等
※概ね5名以上が受講する場合に開催可能です

受講料

無料 (有料テキストを使用する場合は代金をご負担いただく場合があります)

講師

所定の研修を修了した認知症キャラバン・メイト

内容

- ① 「認知症サポーター」とは？
- ② 認知症の症状や種類について
- ③ 認知症の人との接し方 等

講座時間は
1時間30分程度です

申込方法

裏面の申込書をお送りいただくか、電話等でお問い合わせください。

※開催希望日の1か月前頃までにお申し込みください。



申込・問合せ：出雲市 健康福祉部 医療介護連携課 介護予防係

TEL:0853-21-6106 FAX:0853-21-6749

Mail: iryou@city.izumo.shimane.jp

認知症が疑われる症状が発生した時から認知症の進行状況に応じて、いつ、どこで、何をすべきなのか、どのようなサービスを受けることができるのかなどについて、医療・介護関係者をはじめ市民に対しても分かりやすく伝わるよう、その普及に努めています。令和7年度には認知症ハンドブックに認知症基本法を踏まえた内容に見直し、認知症当事者の気持ちや周囲の関わりについてわかりやすく記載しています。手に取って見ていただき、認知症のご本人やご家族への説明等にご活用ください。

認知症の人のために、“家族・地域の皆さまへ”

出雲市

認知症ハンドブック



認知症になっても笑顔で暮らせるまじづめり

1. 認知症について ----- 1ページ
2. 本人の思い ～認知症の“からくり”～ ----- 2ページ
3. 早期発見・早期治療が大切です ----- 3ページ
4. 認知症の人との接し方 ----- 4ページ
5. 笑顔で暮らせる“サポート早わかり表” ----- 7ページ
6. 地域・職場の皆さまへ ----- 11ページ

認知症について

認知症とは？

さまざまな原因で脳の働きが悪くなることで記憶力や判断力などが低下し、日常生活に支障が出てくる状態をいいます。老化により単なる物忘れが増える状態とは異なるものです。

代表的な疾患

- アルツハイマー型認知症
- 脳血管性認知症
- レビー小体型認知症
- 前頭側頭型認知症

症状の進行

多くの場合は、症状が徐々に進行します。

患者数の多いアルツハイマー型認知症の例

【初期】
新しいことを覚えることができなくなる

→

【中期】
認知機能の低下によって日常生活動作に支障が出てくる

→

【後期】
身体合併症が増える

中核症状と周辺症状

認知症の進行に伴い、記憶や思考、見当識、理解、学習能力、判断などの機能が下し、認知症の「中核症状」が現れます。中核症状を背景に、生活歴や生活環境、周囲の対応などさまざまな要因が影響し、周辺症状（BPSD:認知症の行動・心理症状）が現れる場合があります。

中核症状

記憶がよいもの忘れなど
記憶がよい時間や場所などがわからなくなる
機能障害が物事を計画して遂行することが困難になる
物の置かえが早いスピードが遅くなる

ほとんどの認知症の人にみられる

中核症状に、本人のもともとの性格や体の状態、不安や焦りなどが影響して起こり得る。改善できる可能性がある

周辺症状(BPSD:行動・心理症状)

徘徊 不潔行為 暴力など

地域・職場の皆さまへ

を発症しても、できるだけ長く地域で生活できることは、認知症のことにとって大切なことです。「いつか自分や家族、友人が認知症にならない」と身近なこととしてとらえ、認知症の方やその家族を応援気持ちで様子を見守っていただきたいです。

地域の集まりに顔を
見せなくなった方がいたら…
ゴミ出しの日も間違えるように…

↓

日常的に挨拶などで声をかけ
ゴミ出しの日や集まりに一言声を
かけるなど、さりげない見守りを
はじめてみてください。



会話や身なりが以前と違ってきて
気になる方がいたら…

↓

一人暮らしや高齢者のみの世帯の場合などは、
離れて暮らす家族に様子を伝えてみましょう。

買い物の際に支払いを
せず帰ろうとする方がいたら…

↓

周囲にわかるように呼び止めることはせず、
優しく声をかけてください。

窓口電話帳

【総合相談窓口】

あまの心支援センター
ごなど、お気軽にご相談ください～
☎ 25-0707
出雲市社会福祉センター内

湖陵 ☎ 43-7611
湖陵町三部1352 湖陵福祉センター内

大社 ☎ 53-3232
大社町竹葉南1397-2
出雲市役所 大社行政センター内

斐川 ☎ 73-9125
斐川町上庄南1766-2
出雲市社会福祉協議会斐川支所内

【電話相談窓口】

根県支部
スタッフが電話で話を伺います。電話相談料は無料です。
(日・年末年始を除く) ☎ 0853-22-4105

根県支部
（ディネーター）
☎ 0853-25-7033
(若年性認知症)と言います)

〒693-8530 島根県出雲市今市町70 ☎21-6106
認知症の人と家族の会島根県支部出雲地区会
しまね認知症疾患医療センター、島根県立大学出雲キャンパス、
認知症キャラバン・メイト連絡会、出雲市民生委員・児童委員
会福祉協議会、高齢者あしん支援センター、出雲保健所

認知症が疑われる人や認知症の人をできるだけ早期に適切な医療・介護サービスにつなげることができるよう、医療・介護の専門職からなるチームがサポートします。ご利用については御相談ください。

「認知症初期集中支援チーム」

市では、認知症になっても、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、認知症専門医、看護師などの医療職、介護職によって構成される「認知症初期集中支援チーム」が、早期診断や早期対応の支援を行う。

【対象者】

在宅で生活している40歳以上の認知症の人や認知症が疑われる人及びその家族で

- ・ 認知症の診断を受けていない、または治療を中断している人
- ・ 医療または介護サービスを利用していない人
- ・ 認知症があり、何らかのサービスを利用しているが、認知症の症状の対応に困っている人 など

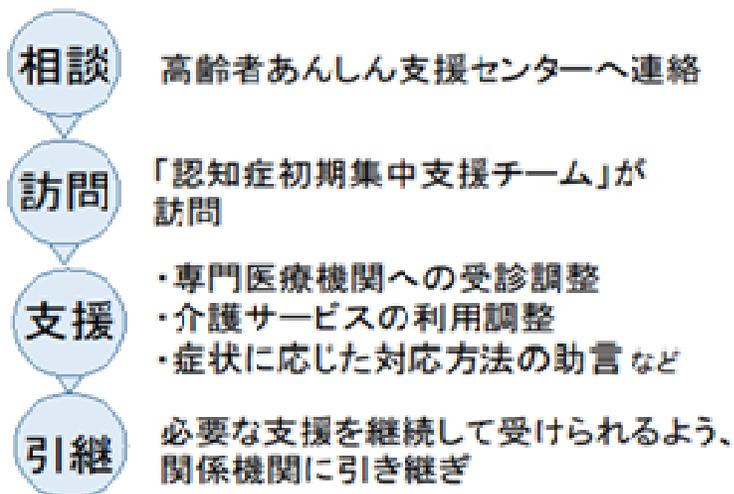
【費用】

自己負担なし

【協力機関】

出雲医師会認知症サポート医連絡会

【相談から支援までの流れ】



出雲市の認知症施策【認知症サポート医会】

認知症患者の診療に習熟し、かかりつけ医の支援等を行うための専門研修を修了した「認知症サポート医」(令和7年(2025)11月1日時点で出雲市内では26名が登録)は、連絡会、研修会等を実施されています。更に、島根大学医学部附属病院及びエスポアール出雲クリニックでは、認知症疾患医療センターとして、かかりつけ医への支援を行っています。研修会のご案内があれば是非ご参加ください。

(参考)令和7年度出雲認知症研修会(出雲認知症サポート医会主催)

- 5月13日
 - ・「認知症の今昔」
石川脳神経内科医院 石川厚先生
 - ・「認知症エキスパートに伺う～高齢者施設編～」
つむらファミリークリニック 津村弘人先生
- 9月2日
 - ・「島根県における認知症施策」
島根県健康福祉部高齢者福祉課
地域包括ケア推進室 北村拓也氏
 - ・「高齢者と頭痛」
あさやま内科クリニック 朝山康祐先生
- 12月23日
 - ・「地域一般病院での認知症の入院対応～総合内科医として～」
出雲徳洲会病院 神経内科部長 小黑浩明先生
 - ・「軽度認知障害とかかりつけ医」
深田医院 院長深田倍行先生
- 3月10日
 - ・「認知症の原因・予防についての新しい視点とBPSDへの対応」
エスポアール出雲クリニック 院長高橋幸男先生

2 島根県内の認知症サポート医 (※ 敬称略)

R7.11.1現在 140名 (累計養成数175名)
※ 市町村名は所属医療機関所在地

| 市町村 | 認知症サポート医 |
|----------|---|
| 出雲市 (26) | 高橋幸男 <エスポアール出雲クリニック> 深田倍行 <深田医院> 土谷治久 <佐田診療所> 長濱道治 <長井篤・金井由貴枝・若佐憲一> 正岡 浩 <島根大学医学部附属病院> 石橋和樹 <小田川誠治 安部哲史<島根県立中央病院> 白澤 明 <濱田洋津子 <出雲総合医療センター> 山本大介 <小黒亮明 <出雲徳洲会病院> 金森 隆 <東川生協病院> 津村弘人 <つむらファミリークリニック> 石川 厚 <石川脳神経内科医院> 豊田完哉 <とよだ内科脳科クリニック> 高尾 碧 <こころの医療センター> 松崎太志 <まつざきクリニック> 小林 祥也 <小林病院> 團山隆之 <團山医院> 朝山康祐 <あさやま内科クリニック> 江口春樹 <江口内科医院> |
| 松江市 (35) | 櫻井照久 <松江市立病院> 細田真司 <こころの診療所細田クリニック> 松嶋永治 <まつしま脳神経内科クリニック> 柴田昌洋・百瀬 勇・宮岡 剛・清水予智子 <松江青葉病院> 高岡志津枝 <高岡医院> 杉谷美代子 <いんべ杉谷内科小児科診療所> 内藤 篤 <松江記念病院> 萬代恵治 <松江刑務所> 松本和也 <入深クリニック> 下山良二 <中島健二・吉和久典・深田育代 <松江医療センター> 野津立秋 <野津医院> 泉 明夫 <泉胃腸科医院> 伊達伸也 <東部島根医療福祉センター> 坂之上 史 <伊達祐貴 <鹿島病院> 岡崎哲也 <八雲病院> 戸田裕子 <松江生協病院> 佐々木亮 <介護老人保健施設もちだの郷> 田中康貴 <たなか徳神経内科> 立木進人 <立木医院> 小松和久 <小松クリニック> 奥田 亮 <奥田クリニック> 山田顕士 <松江市国民健康保険来待診療所> 津森 洋 <津森医院> 伊藤健一 <伊藤医院> 田野俊平 <介護老人保健施設ライフケア回春苑> 安来市 (13) 杉原徳郎 <杉原クリニック> 野坂晋介 <野坂医院> 片山征廣 <竹下久由・卜龍浩和・江原真理子・小野文明 角 健一・新宮生知子・河崎通司・新田則之 妹尾清夫 <安来第一病院> 池田啓孝 <安来市立病院> |
| 益田市 (14) | 坪内 健 <藤本 僚・松田泰行 <松ヶ丘病院> 金島新一・金島研次 <金島胃腸科外科> 大森治樹 <石見クリニック> 露崎克也 <さくらクリニック> 井上貴雄 <あすかクリニック> 松本祐二 <松本医院> 永瀬聡士 <永瀬脳外科内科> 長沼 清 <万葉コトノ業クリニック> 齊藤洋司 <益田地域医療センター-医師会病院> 越智 弘 <おちハートクリニック> 松本祐二 <ゆたかファミリークリニック> |
| 浜田市 (9) | 中村慎一 <中科医院> 田中新一 <心療内科中クリニック> 強重博巳 <備前内科眼科医院> 沖田浩一 <沖田内科医院> 松本貴久 <花田正人 <西川病院> 北條重政 <浜田医療センター> 小池昌弘 <小池医院> 佐藤 誠 <浜田市国民健康保険赤染診療所> |
| 津和野町 (2) | 飯島 誠 <津和野共有病院> 木谷光博 |
| 江津市 (5) | 中澤芳夫・堀江 裕・山崎一成 <済生会江津総合病院> 花田有二 <花田医院> 花田昌也 <花田クリニック> |
| 大田市 (6) | 海住伸行 <山口拓也 <うめがえ内科クリニック> 安部英智 <安本真人 <石東病院> 福田理子 <こまめクリニック> 山形貴香 <大田市立病院> |
| 川本町 (3) | 加藤節司 <大畑修三・平田敏明 <加藤病院> |
| 美郷町 (1) | 泰 善明 <泰クリニック> |
| 邑南町 (5) | 河野圭一 <河野医院> 高橋亮幸 <星ヶ丘クリニック> 岡藤由紀美 <三笠記念クリニック> 酒井和久・上田晋広 <邑智病院> |
| 雲南市 (6) | 今岡大輔 <奥出雲コスモ病院> 大谷 謙 <石巻善徳 <雲南市立病院> 三代知子 <山根医院> 山根孝文 <山根医院> 水瀬正樹 <本永瀬医院> |
| 奥出雲町 (2) | 遠藤健史 <岡正詩 <町立出雲病院> 飯南町 (1) 松本賢治 <飯南病院> |

※ 認知症サポート医への相談や協力依頼など、本来の目的以外での名簿の使用はご遠慮ください

認知症カフェは認知症の本人や家族等が悩みや情報を共有し交流できる場です。ご家族やご本人をご紹介ください。ケアマネや事業所の皆様の参加もどうぞ。

参加してみませんか？

認知症カフェ



認知症カフェは、本人・家族が集いリラックスしたなかで交流を楽しむ場所です

本人と家族の“繋がり”

父は、2年前に認知症と診断されていたのですが、見守り程度で介護保険サービスは必要ありません。仕事をバリバリしていたこともあり、地域の人との繋がりはあまりありませんでした。いくつかサービスには行ってみたのですが、本人は「行きたくない」と言います。でも、認知症カフェにだけ来るのです。楽しそうに話す父親をみることができます。

リラックスした“語り”

母は、認知症と3年前に診断されました。共働きであり、ケアマネジャーさんには施設利用を勧められたのですが、どうしても決心がつきませんでした。認知症カフェに参加し、参加者同士でリラックスして話をすると、「施設でも大丈夫」と思えるようになり、決心がつかしました。

認知症のことを“知る”

妻は、認知症と診断されてから自信を無くしています。でも、認知症カフェに来てみて、参加者の語りから認知症のことを本人が知ること、少しずつ前向きになってきました。本人も家族も認知症について一緒に学び、知る機会があるということは本当に助かります。

“地域”と繋がりをつくる

夫は、初期の認知症と診断されたのですが、特に介護保険サービスも必要ありません。病院では、できるだけ地域との交流を図るようにと言われましたが、本人は乗り気ではありません。外出しても買い物程度で人と話す機会はありませんでした。そこで認知症カフェに来てみると、そこに集う人は理解をしてくれる人ばかりで、とても楽しく過ごすことができます。

市内の認知症カフェ一覧

記載の地区以外からの参加も可能です

今市 オレンジカフェいずも

会場 / ラピタ本店2F 緑
開催日 / 毎月第2・4金曜日
時間 / 13:30～15:30
主催者 / 認知症の人と家族の会
島根県支部出雲地区会
参加費 / 100円

今市 おひさまカフェ

会場 / 出雲医療生協在宅支援センター
開催日 / 保育園行事に合わせて開催
時間 / 10:00～11:00
主催者 / 出雲医療生協在宅支援センター
参加費 / 無料

彦根 みかんの木

会場 / 鳥根県立大学 出雲キャンパス
開催日 / 毎月第3水曜日
時間 / 16:30～17:30
主催者 / 出雲キャンパス担当者・みかんの木サークル
参加費 / 無料

斐川地域 ほっこりカフェ

会場 / 斐川地域内の会場を移動
開催日 / 奇数月の第3火曜日
時間 / 14:00～15:00
主催者 / シャンシャンクラブ有志・ひかわ医療生協
参加費 / 100円

久木 久木ほっこりカフェ

会場 / 久木コミュニティセンター
開催日 / 毎月第3水曜日
時間 / 14:00～15:00
主催者 / 久木地区有志・ひかわ医療生協
参加費 / 100円

今市 だんだんCafe

会場 / 出雲医療看護専門学校
開催日 / 学校行事等に合わせて開催
主催者 / 出雲医療看護専門学校
参加費 / 無料

※記載の開催情報は変更の可能性あります。詳しくは、下記連絡先へお問い合わせください。

お問い合わせ

出雲市認知症地域支援推進員 (☎ 0853-25-7708)
出雲市役所 医療介護連携課 (☎ 0853-21-6106)

オレンジカフェいずも

開催日
10月10日 1月 9日
24日 23日
11月14日 2月 13日
28日 27日
12月12日 3月 13日
26日 27日

場所:ラピタ本店 2階
時間:第2・4金曜日
13:30～15:30
100円参加費 どなたでも

福祉・医療の専門スタッフがいますので認知症の相談受けます。

オレンジカフェいずもは、認知症の本人と家族、専門職、ボランティアなどの市民が気軽に集い、おしゃべりをしたり、楽しみを分け合ったり、誰でも参加できる憩いの場です。出入りは自由です。ゆっくりお茶でも飲みながら、みなさんの交流の場としてご利用ください。

主催 認知症の人と家族の会 島根県支部 出雲地区会
〒693-0001 出雲市今市町1213番地
お問い合わせ 電話0853-25-0717

会場で勧誘などの活動はお断りします

当事者会もするよ

みんなでワイワイ一緒に何かしたいな。

みんな同じことを思っているんだね。たのしいな。そうだ、そうだ。

気を使わず、自由に話せていいわ。

ここへ家族と一緒に来るのは助かる。そのうち自分一人で来たいわ。

みんなに会えると楽しい

☺カフェに参加の当事者は上記のグループに参加できます。
☺家族の方は別のグループになります。
☺当事者だけでも参加できます(介護者が買い物や市役所の手続き等不在の間)
☺開催中はいつでも出入り自由です。
☺イベントの日は介護者・当事者、自由にお座りください。
☺オレンジカフェいずもと同じ場所で開催時間も同じです。
☺問い合わせ先:認知症の人と家族の会
0853-25-0717

出雲市の認知症施策【行方不明への対応】

行方不明時の早期発見のため、出雲市社会福祉協議会が、出雲警察署と連携して行う「出雲市認知症高齢者等SOSメール安心ネットワークシステム」*による取組と市の公式ラインでの発見協力依頼を実施しています。行方不明のおそれのある高齢者等の事前登録や、発見協力者のご登録をお願いします。

認知症等で **行方不明** になられた方の
発見協力者 に登録をお願いします
 地域の協力を得て、行方不明になった人の早期発見につなげる取組です。

7 似た人だ。出雲警察署へ連絡しよう。

4 行方不明者情報をメールで配信します。

1 出掛けたら、家が見つからないうつになっちゃわ。

3 はい、わかりました。

2 おじいさんが帰ってこないんです。

8 見守りご協力いただき感謝します！

5 日常生活のなかで地域に気を配り発見に協力する **発見協力者**

6 今月の○月○日に発見後期があった方不明者の情報を配信します。発見後期は、出雲警察署(電話0853-24-0100)までご連絡ください。
 行方不明者情報
 行方不明日時・年齢○年○月○日(○) 性別
 身長 体重
 髪色 瞳色
 服装(上衣): 緑色の長袖のシャツ
 履物(下衣): 茶色のスラックス
 移動手段: 徒歩

9 おじいさんが無事、帰って来ました。

SOSメール 発見協力者の登録方法

①左のバーコードを読み取るか、宛先sos-join@izumoshakyo.jpを入力し、空メール(宛先以外入力しない)を送信
 ②SOSメール管理者からメールが届いたら、登録完了

☆登録できない場合☆

(1) 迷惑メール防止設定をしておられる方は、「izumoshakyo.jp」のドメインを受信可能にしてください。
 (2) URL付きメールのフィルタ設定は、登録手続きの際、一時的に許可設定してください

●登録、メール受信にかかる通信料は、ご本人負担となります。

★出雲市公式LINEでも行方不明者情報を受け取ることができます。

下のQRコードを読み取り登録

LINE 友だち募集中

認知症等で **行方不明** になる **心配** がある方の
ご家族の方へ **事前登録のご案内**

1 うちのおばあさん、最近認知症が進んだみたいで、行方不明になるのが心配だわ。出雲市社協へ相談してみようかしら。

2 おばあさんが、帰って来ません。事前登録をしている出雲花子です。

3 はい、わかりました。

4 事前登録されている出雲花子さんですね。署員による捜索を始め、発見協力者に特徴をSOSメールで配信します。

2 行方不明になった時のため、事前登録できません。警察と情報共有して、早期発見につなげています。

1 うちのおばあさんが心配で...

「事前登録について」

- 対象は、出雲市にお住まいで、行方不明になるおそれのある高齢者や障がい者です。
- 登録するには、事前登録届出書を出雲市社会福祉協議会本所又は各支所の窓口に提出してください。(手続きは原則ご家族が行ってください) 登録される方の特徴が分かる上半身・全身の写真各1枚(1年以内に撮影したもの)を添付してください。

※登録情報は、出雲市社会福祉協議会及び出雲警察署で保管します。
 ※提供いただいた個人情報、本事業の目的以外で第三者に提供することはありません。

◆登録のお申込み・問い合わせ先◆

社会福祉法人 出雲市社会福祉協議会 地域福祉課

本所: TEL(0853)23-3781 FAX(0853)20-7733

本所又は最寄りの支所までお問合せください

平田支所: 63-4624 佐田支所: 84-0131
 多伎支所: 86-2331 湖陵支所: 43-2310
 大社支所: 53-3196 斐川支所: 73-9330

* SOSメール: 認知症などが原因で、記憶力・判断力が低下することにより、外出後に道を間違えたり、自分の家がわからなくなったりした時、協力者に行方不明者の情報をメールで配信し、より多くの目で検索することによって少しでも早く家族のもとへ帰れるようにするシステムです。

総合事業マニュアルの改訂について

今後の総合事業の推進について

令和6年度第2回介護保険運営協議会地域支援部会

資料2-4
改

令和7年(2025)1月30日

(課題)

2040年のサービス需要の増加を踏まえれば、介護福祉士等の専門職が重度高齢者へ専門性が発揮できるよう、軽度高齢者については、可能な限り多様なサービスへ機能分化を推進していくことで、限られたサービス資源を効率的かつ効果的に活用できる体制を構築していく必要がある。

しかしながら、訪問型サービスについては実績がほとんどなく、従前相当サービスからの機能分化について、需要変化の緩やかな第9期計画期間において一層の強化を図って行く必要がある。



令和6年度介護保険運営協議会地域支援部会で提案し、承認を得る。

(事業の方向性に関する論点)

- ① 要支援等の軽度高齢者への介護予防支援及び介護予防ケアマネジメントによるサービス調整における専門職などの介護資源の投入量の多い従前相当サービスの利用については、サービス需要が増大する中、真に必要な方へ持続可能な形でサービスを届け
ていく必要がある。

今後、従前相当サービスの新規利用の適正化に向け、地域ケア個別会議等において多角的に検証し、本市の実情を踏まえた運用の見直していくこととしてはどうか。

- ② 第9期計画期間中に多様なサービスの提供体制を構築し、機能分化を推進していくため、当該計画期間中の支援を強化するとともに、実効性の高い支援ルールを検討して
いくこととしてはどうか。

これらについて検討し、検討結果を踏まえ総合事業のマニュアルを改訂する

令和8年度からの総合事業マニュアルの改訂内容(概要)について

- (p2)各サービスについて、従前、サービスA・B・C・Dから、分かりやすい通称を命名
- (p4)総合事業の考え方に、状態に応じたサービス利用についての記載追加
- (p6)継続利用要介護者に関する記載の追加
- (p7)一般介護予防事業に関する記載を、広く介護予防の取組に関する記載へ変更
- (p8、15)訪問Bの利用料等の変更
- (p10～16)各サービスの対象者像等について、出雲市の状況及び国の総合事業のガイドラインを踏まえたものへ変更
- (p17)サービスの併用について、総合事業と予防給付、介護給付の併用及び訪問Bと他の訪問サービスの併用を整理
- (p18～19)サービス検討時におけるサービス選択の考え方・自立支援・重度化防止の推進のため、各サービスのケアマネジメントにおいて、特に意識して欲しいポイントを示す(目標の具体化・明確化、サービス卒業に向けた流れ等)
- (p20)サービスAのケアマネジメントを、ケアマネジメントAからケアマネジメントBへ変更
- (p20～21)AIモニタリング加算の記載追加
- (p21)初回加算、委託連携加算の説明文の追加
- (p22)ケアマネジメントCにおけるいきいき生活ノート(出雲市版介護予防手帳)の活用に係る記載追加
- (p23)ケアマネジメントの実施に係る記載追加

出雲市公式ホームページへの総合事業マニュアル等の掲載先

「総合事業における多様なサービス(サービスA、B、C、D)に係る
事業者及びケアマネ向けの情報」

▶ホーム⇒事業者の方

⇒保健衛生・福祉・子育て

⇒介護・介護予防

⇒介護予防(総合事業・介護予防支援)



※改定後のマニュアル等は、令和8年4月以降に掲載予定です。

AIを活用したモニタリング電話サービス利用補助について

AI活用による居宅介護支援事業所業務負担軽減事業

■ AIを活用したモニタリング電話サービス利用補助 (R8.7~)

居宅介護支援事業所がAIを活用してモニタリングを実施する場合、その実施に必要な経費の一部を補助します。

※介護予防ケアマネジメントにおけるモニタリングが対象。

| 項目 | 金額等 | 特定事業所 |
|----------|------------|------------|
| | | 補助率 |
| 補助額（上限） | 100,000円※1 | 500,000円※2 |
| 利用者数（上限） | 20人 | 100人 |

AIモニタリング電話利用料：850円/コール

※1 850円×月1回×12月×利用者(対象となる要支援者) 20名×1/2 = 102,000円

※2 850円×月1回×12月×利用者(対象となる要支援者)100名×1/2 = 510,000円

高齢者あんしん支援センター等における実証事業（R7.7～）実施イメージ

毎月の**モニタリング電話**をAI（CareCall）に置き換えて実施

介護予防ケアマネジメント（現状）

介護予防ケアマネジメント（実証）



モニタリング

電話
（毎月）



ケアマネジャー

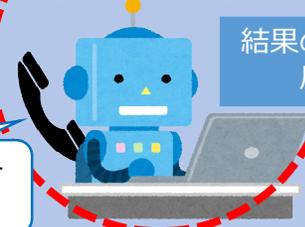
訪問
（3ヶ月毎）



高齢者あんしん支援センター

モニタリング

電話
（月1～2回）



あんしん支援センター
でございます

訪問
（3ヶ月毎）



ケアマネジャー

NAVER CareCallシステム

業務効率化・負担軽減

電話対応や記録作成の手間が減り、
他業務に充てる時間が確保できる。

ケアの質の維持・向上

状況の変化を見逃しにくくなり、必
要な対応が迅速になる。

対応の標準化、属人化防止

聞き取り項目や記録様式の定型化に
より担当者によるモニタリングのバ
ラつきが減る。

記録・報告業務の簡素化

自動通話記録や音声⇒テキスト変換
により記録作成にかかる時間が短縮
される。

「ルピナスネット出雲」電子@連絡帳の活用について

電子@連絡帳について

- ・医療・介護・福祉・行政など、市民の健康や福祉を支える

関係者をつなぐ「**多職種連携プラットフォーム**」

- ・チャット/掲示板形式で患者・利用者の情報を

高度なセキュリティ下で安全に連携し、「**業務負担の軽減**」

- ✓ 空き時間にやり取り（隙間時間を活用）
- ✓ 文書ファイルや画像など大きなファイルも共有可能
- ✓ アンケートやスケジュール機能

- ・患者や利用者情報だけでなく、日々の業務に役立つ

医療・介護・福祉に関する様々な「**情報交換の場**」

Ex.研修会情報、行政情報、事業所情報、等

投稿すると
支援メンバー
みんなに伝わる！

北テスト (デモサイト01 クリニックA) 2020/07/17 21:53

7月17日訪問：定期訪問

本日、「新規」さんはデイに来ていますが下肢に浮腫があります。体重は本日27.7kg。6/2 26kg、5/1 25kg でした。呼吸困難感はありません。尿量は少ないですが尿意の訴えはあります。写真添付致します。よろしくお願いたします。

詳細表示

水虫.jpg

水虫2.jpg

定期訪問 デイ

1 喜多 剛志 (Dr.) さんがボタンを押しました

返信を折りたたむ

Dr. 喜多 剛志 (デモサイト01 クリニックA) 2020/07/17 21:58

体重が増えているようですが、右足の発赤も落ち着いてきており、多少むくみはありますが、このままで経過観察をお願い致します。分かりやすい写真ありがとうございました。後日心不全のマーカ―をチェックして利尿剤の量を決めたいと思います。

詳細表示

返信

電子@連絡帳で、できること

面倒なやりとりも、写真、動画、添付ファイルで解決

ノート代わりに。

「連絡ノート」の共有

連絡ノートの共有したいページを写真に撮ってアップすれば、いちいち連絡ノートを見に行く手間も省けます。

たまったFAXも。

「FAX」画像の共有

届いたFAXをその都度登録する習慣にしておけば、FAXがたまることもありません。

共有したい画像も。

「医療画像」の共有

病院等で撮影したCTやMRI画像も登録すれば、内外の関係者とも簡単に情報共有する事ができます。



「ルピナスネット出雲」
電子@連絡帳



患者の症状も。

「写真」の共有

患者の患部写真を登録して共有したり、写真にコメントを付けたりする事もできます。

報告書や必要書類も。

「文書ファイル」の共有

医師や看護師、ケアマネジャーなど複数が関わる文書なども手軽に登録できます。ExcelやWordも添付できます。

歩行や嚥下の様子も。

「動画ファイル」の共有

スマートフォンやタブレットで撮影した動画ファイルの共有も可能です。日常の様子を撮影・共有し予防ケアの参考にできます。※ファイルサイズは10~20秒(30MB)程度を推奨します。

電子@連絡帳の活用例

◆書類（情報提供書）の電子データによる送付 ✓ペーパーレス化で「コストカット」

◆在宅支援チームにおける情報共有 ✓1対多数の連絡で「業務効率化」

⇒ ケアマネジャーの調整業務、介護サービス事業所からの利用者に関する情報共有、支援に関する報告・相談 等

◆介護施設と嘱託医との連携 ✓動画や写真で「正確に情報共有」

⇒ 往診前や看取り期等の情報提供（バイタル、相談内容など）、処方依頼、皮膚状態等の写真添付、総合病院受診結果や検査データ共有

◆地域資源マップで事業所情報を検索 ✓迅速に適切なサービスにつなげる

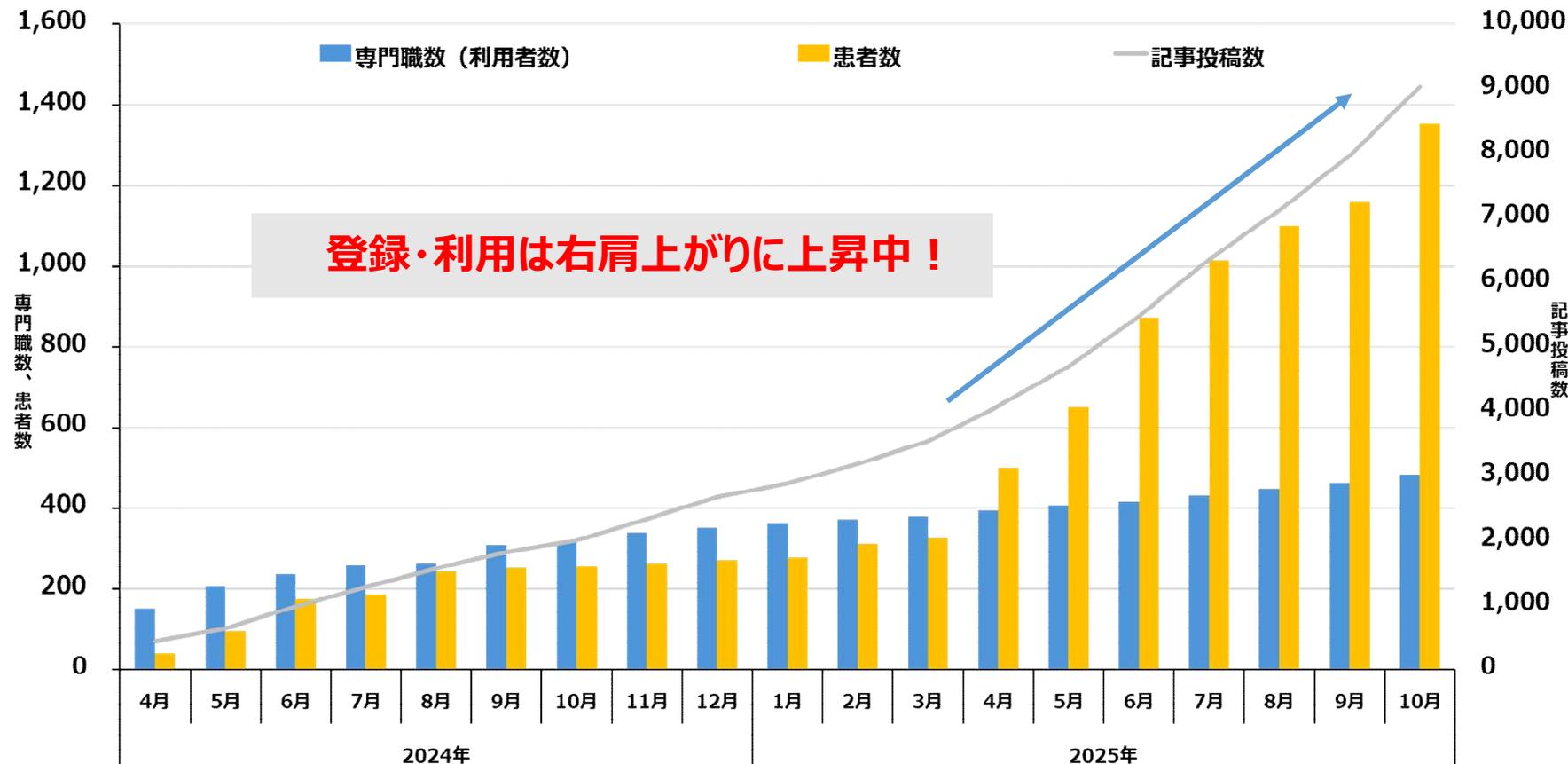
⇒ 医療・介護事業所、通いの場、高齢者ふれあいサロン等を検索可能

◆その他、患者・利用者に関わらない専門職間の情報共有

⇒ 職能団体の情報共有、事業所内での掲示板等

使い方次第で幅広い場面の連携で活用が可能

電子@連絡帳の登録・活用状況



電子@連絡帳の活用状況

- 登録事業所数：290事業所
- 利用登録者数：590名
(ケアマネジャー151名)
- 患者支援対象数：1,553人
- 記事数：11,477件

※令和8年2月20日時点

登録・利用は「**無料**」です。ぜひ積極的に登録・ご利用ください。
 詳しくは「ルピナスネット出雲」ポータルサイトから (<https://ptl.iij-renrakucho.jp/izumo/>)

